

令和7年度 長井市遊びと学びの交流施設くるんと 事業紹介

長井市遊びと学びの交流施設くるんと
施設長 滝口 友和
指定管理者 株式会社エムシーアイ

令和7年度
長井市遊びと学びの交流施設くるんと
事業紹介

長井市立図書館 事業報告一部紹介

図書館シネマ

上映日	上映作品	参加人数
4月11日	梅切らぬバカ (77分)	37
5月9日	ゴヤの名画と優しい泥棒 (95分)	12
6月13日	憧れのハワイ航路 (78分)	16
7月11日	父と暮せば (99分)	34
8月8日	コット、はじまりの夏 (95分)	18
9月12日	52ヘルツのクジラたち (136分)	17
10月10日	次郎長三国志 (126分)	17
11月14日	ローマの休日 (118分)	30
12月12日	紅白が生まれた日 (72分)	21
1月9日	くちづけ (123分)	30
2月6日	お終活 熟春!人生、百年時代の過ごし方 (113分)	58
3月13日	お終活 再春!人生ラブソディ (118分)	53
3月14日	お終活 再春!人生ラブソディ (118分)	12



毎月第2金曜日に実施。ドトールと連携し
ドリンク割引券を発行し大好評でした。

映画文化へのアクセスの向上

大画面や音響設備を使って名作映画を上映し、身近な場所で気軽に映画を楽しめる環境を提供します。

図書館の活性化・利用促進

本を読むだけでなく、映画をきっかけに図書館や「くるんと」へ足を運んでもらう機会を作ります。

市民の交流の場づくり

子どもから高齢者まで、地域住民が同じ空間で作品を共有し、交流できる憩いの場を提供します。

関連資料（原作本など）への関心喚起

上映作品に関連する書籍やDVD、館内資料に興味を持ってもらうきっかけをつくります。

公共図書館として、誰もが無料で文化的な体験や学びを得られる機会を提供することを目的としています。

長井市立図書館 事業報告一部紹介

いなほ号



移動図書館「いなほ号」を活用して市内の小学校や幼保施設を計画的に巡回することで、「待つ図書館」から「出向く図書館」へと機能を拡張し、地域間の読書環境格差を解消することを目的とします。

最大約3,500冊の豊富な児童書や絵本を子どもたちの身近に届けることで、本を選ぶ楽しさや新しい知識と出会う喜びを創出できます。また、教職員や保育士と連携しながら、子どもの発達段階に応じた質の高い読書環境を提供し、長井市全体における「子ども読書活動」の推進と、心豊かな次世代の育成に繋げています。

令和7年度「いなほ号」巡回日程表

コース	※	※-1		※	※-1		※	※-2		※-2	※-2		※-2			
訪問曜日	伊勢市 センター	伊勢市 東山町 センター	伊勢市 津市 センター	伊勢市 津市 センター	伊勢市 津市 センター	伊勢市 津市 センター	伊勢市 津市 センター	伊勢市 津市 センター	伊勢市 津市 センター	伊勢市 津市 センター	伊勢市 津市 センター	伊勢市 津市 センター	伊勢市 津市 センター			
訪問時間	9:30 9:50	10:10 10:40	9:25 10:40	10:00 11:20	11:00 11:20	9:15 9:45	9:30 10:05	10:00 10:10	9:30 10:10	10:10 10:40	9:25 10:10	11:00 11:20	9:30 10:10	9:15 9:45	11:00 11:20	
4月	休館日 休館日	9 23	9 23	10 20	11 20	10 10	11 25	15 16	16 16	17 17	18 18	18 18	18 18	18 18	18 18	
6月	休館日 休館日	7 20	7 21	7 21	8 22	8 22	9 23	9 23	休館日 休館日	14 28	14 28	15 29	15 29	16 30	16 30	
6月	3 17	3 18	4 18	4 18	5 19	5 19	6 20	6 20	休館日 休館日	11 25	11 25	12 26	12 26	13 27	13 27	
7月	1 15	2 16	2 16	3 17	3 17	4 18	4 18	4 18	休館日 休館日	9 23	9 23	10 24	10 24	11 25	11 25	
8月	29 29	29 30	30 30	30 31	31 31	1 1	5 5	6 6	休館日 休館日	7 19	7 19	8 20	8 20	8 21	8 22	
9月	休館日 休館日	27 27	28 28	28 28	29 29	29 29	2 2	3 3	3 3	4 4	4 4	5 5	5 5	5 5	5 5	
10月	7 21	7 22	8 22	8 23	9 24	9 24	10 25	10 25	休館日 休館日	15 29	15 29	16 30	16 30	17 31	17 31	
11月	18 18	19 19	19 19	20 20	21 21	21 21	22 22	22 22	休館日 休館日	12 26	12 26	13 27	13 27	14 28	14 28	
12月	2 16	2 17	3 17	3 18	4 18	4 18	5 19	5 19	休館日 休館日	10 24	10 24	11 25	11 25	12 26	12 26	
1月	休館日 休館日	14 14	14 15	15 15	16 16	16 16	20 20	21 21	21 21	22 22	22 22	23 23	23 23	23 23	23 23	
巡回日	1/28		1/29		1/30		2/3		1/30		1/29		1/28		2/3	

※1) 9月24日(水)は前日火曜日が祝日で開館のため代替え休館日で運休となります

巡回の変更、お休み、返却のみ希望などのある場合には、必ず3日前までにお電話かFAXにてご連絡ください。

【長井市立図書館】〒993-0007 山形県長井市本町一丁目1-1/TEL:0238-88-2535 FAX:0238-88-1051
 【休館日】第2、第4火曜日（該当火曜日が祝日の場合は翌水曜休館）
 【開館時間】平日・日曜日・祝日…10:00～19:00/土曜日・翌月曜が祝日の日曜日…10:00～20:00

長井市立図書館 事業報告一部紹介

こども読書週間 「読書でBINGO～NDCと仲間たち～」



NDC(日本十進分類法)オリジナルキャラを作成。ビンゴゲームを通してPRしました。

子どもたちが普段あまり手に取らないジャンルの本に触れ、読書の幅を広げることを目的としたビンゴ形式の読書推進イベントです。「NDC」やイベントの仕組みについてご紹介します。

タイトルのキーワード「NDC」とは？

NDC（日本十進分類法 / Nippon Decimal Classification）の略です。日本のほぼ全ての図書館で使われている、本をジャンルごとに「0」から「9」の数字で分類するルールのことです。

- ・0類：総記（百科事典、コンピュータなど）
- ・1類：哲学（心理学、生き方、宗教など）
- ・2類：歴史（地理、伝記など）
- ・3類：社会科学（政治、学校、民話、仕事など）
- ・4類：自然科学（数学、恐竜、動物、宇宙、医学など）
- ・5類：技術（料理、乗り物、ものづくりなど）
- ・6類：産業（農業、お店、ペットなど）
- ・7類：芸術（スポーツ、音楽、マンガ、工作など）
- ・8類：言語（言葉、英語など）
- ・9類：文学（小説、物語、絵本など）

子どもたちはどうしても自分の好きな物語（9類）や特定のジャンルばかりを読みがちになります。このビンゴにゲーム感覚で挑戦することで、「今まで開いたことがなかった新しい本の世界（仲間たち）」に出会える、楽しくて知的なイベントになりました。

長井市立図書館 事業報告一部紹介

図書館レシート大抽選会



くるんと開館2周年のお祝い企画。貸出件数がグンと増えました。再度実施の要望多数。

「図書館レシート大抽選会」は、利用者に楽しく図書館を利用してもらい、読書や施設の活用をさらに盛り上げるためのユニークなイベントです。

「たくさん本を借りてみよう」「期間中にまた図書館に行こう」というきっかけを作り、子どもから大人までゲーム感覚で読書を楽しんでもらうための取り組みです。

図書館ならではの、読書が楽しくなるアイテムや「くるんと」の関連グッズなどを景品として用意しました。

- ・図書カード3000円分
- ・オリジナル読書グッズ（特製ブックマーク、下敷き、読書通帳）
- ・オリジナルグッズ（タオル）
- ・お花の種
- ・雑誌付録

長井市立図書館 事業報告一部紹介

探究教室ながい（全6回）



年6回の定例開催の他に、体験型の「とくべつ編」も実施。子供たちの目が輝きました

2025年6月から2026年3月にかけて、全6回の探究教室を開催。開催場所は、長井市遊びと学びの交流施設「くるんと」内にある長井市立図書館を主な会場とし、基本的な探究テーマを「長井のまちを知る」とした。長井市立図書館の本や施設周辺のフィールドを活用しながら、子どもたちが自ら「なんで？」を立て、調べ、考え、表現する力を育むプログラムを展開した。また、図書館で実施されているという教室の特性上、調べ学習やレファレンスなど図書館についてのリテラシーが育まれるよう設計した。対象は小学生と保護者。毎回参加無料で開催し、リピーターを中心に新規参加者も受け入れながら運営しました。

回	日付	タイトル	子ども評価	保護者評価	参加（子／保）
第1回	6/29	知の宝探し	8.9	8.0	17／9
第2回	7/27	暮らしと宇宙の知図（ちず）	9.2	8.5	5／4
第3回	9/14	過去とつながる記憶の知図（ちず）	9.2	8.0	7／5
第4回	11/9	空間をハックせよ！未来図書館の知図(ちず)	10.0	9.0	4／3
第5回	1/18	地域の知図(ちず)をまとめよう	9.8	—	5／2
第6回	3/8	「わたしの探究知図(ちず)！」	10.0	9.5	4／2

長井市立図書館 事業報告一部紹介

探究教室ながい（全6回）

第1回：2025年6月29日

- 日時 : 2025年6月29日（日）14:00～16:00
- タイトル : 知の宝探し
- 参加者 : 子ども17名、保護者9名
- 概要 : 「なぜ？」から始めるクイズ&調べ学習ワークとして、図書館の本を使って長井の『ふしぎ』を
解き明かす活動を行った。探究の入口として「問いを持つこと」の楽しさを体感する初回となった。
- 育てたい力 : 「問い」を立て、自分なりに調べ、考える力 / 探究の姿勢の土台づくり
- 満足度 : 子ども平均 8.9 / 10 | 保護者平均 8.0 / 10
- 参加者の声（抜粋）
 - 「『なんで？』の大切さが分かった。調べることの難しさが楽しかった」（保護者）
 - 「子どもの『なんで？』を大切にしていきたいと思いました」（保護者）
 - 「探究は『なんで』が大切とわかりました」（子ども）
 - 「講師の新免さんがとてもパワフルで子供たちの興味や探究する気持ちを上手く引き出してくださると感じた」（保護者）

探究教室ながい（全6回）

第2回：2025年7月27日

- 日時 : 2025年7月27日（日）14:00～16:00
- タイトル : 暮らしと宇宙の知図（ちず）
- 参加者 : 子ども5名、保護者4名
- 概要 : 長井にある水の不思議（水路・川・暮らし）をヒントに、宇宙での水のあり方を調べた。
身近な水と宇宙をつなげて考えることで、スケールを超えた探究思考を育んだ。
- 育てたい力 : 身近な現象を起点に、より大きな問いへとつなげて考える力
- 満足度 : 子ども平均 9.2 / 10 | 保護者平均 8.5 / 10
- 参加者の声（抜粋）
 - 「ポイント制のゲームをするのが楽しかった。ポイントの決め方がおもしろかった」（子ども）
 - 「調べたり考えたり、子供たちでもできる内容でとてもよかった」（保護者）
 - 「普段考えないことについて知ることができて、楽しかった」（保護者）

探究教室ながい（全6回）

第3回：2025年9月14日

- 日時 : 2025年9月14日（日）14:00～16:00
- タイトル : 過去とつながる記憶の知図（ちず）
- 参加者 : 子ども7名、保護者5名
- 概要 : 昔の地図や写真を使って今のまちと比較し、図書館の本を使ってながいの「いまとむかし」を調べた。
最後のワークとして「自分にとって一番の思い出を絵に描く」活動を行い、自分なりの表現力を育んだ。
- 育てたい力 : 地域の変化を読み取る力 / 過去と現在をつなげて考える力
- 満足度 : 子ども平均 9.2 / 10 | 保護者平均 8.0 / 10
- 参加者の声（抜粋）
 - 「昭和についていろいろ学ぶことができた」（子ども）
 - 「長井について考えられるのが面白い」（子ども）
 - 「毎回学校では深く学ぶことのないテーマで授業してくださり、ありがとうございます！」（保護者）
 - 「子どもたちの自由な発想や質問を聞けることを毎回楽しみにしています」（保護者）

探究教室ながい（全6回）

第4回：2025年11月9日

・日時：2025年11月9日（日）14:00～16:00

・タイトル：空間をハックせよ！未来図書館の知図(ちず)

・参加者：子ども4名、保護者3名

・概要：長井市立図書館の本・スペース・ルールを素材として、オリジナルの「学びの遊び」を考え実際に試してみた。小1～小6の異年齢混合チームで協働し、「学びは自分でつくっていい」という自信を育んだ。

・育てたい力：創造力と柔軟な発想力 / 異年齢での協働 / 自分たちで学びをつくる自信

・満足度：子ども平均 10.0 / 10 | 保護者平均 9.0 / 10

・参加者の声（抜粋）

- ・「自分で考えてみたもので本を使いながら遊べるのが良かった」（子ども）
- ・「ゲームを考えて、実際にやってみるというのがとてもよかった。盛り上がってよかった」（保護者）
- ・「大人子供関係なく楽しめる内容でとても楽しめました」（保護者）

探究教室ながい（全6回）

第5回：2026年1月18日

・日時：2026年1月18日（日）14:00～16:00

・タイトル：地域の知図(ちず)をまとめよう

・参加者：子ども5名、保護者2名

・概要：探究教室の会場となっている「くるんと」の「なぜ」を見つけるために、図書館の開架フロアー、閉架書庫、あそびば、くるんとの建物の外側を観察しながら歩き回った。その後、講師との対話を通して、多い子どもで20個以上の「なぜ」を探しだすことができた。

・育てたい力：体験を言葉・絵でまとめる力 / 自分なりの視点で表現する力 / 気づきへの自信

・満足度：子ども平均 9.8 / 10 | 保護者アンケート：未回収

・参加者の声（抜粋）

- ・「図書館くるんと全体のなんでが知れて楽しかった」（子ども）
- ・「前回と引き続き、『なんで？』と思うことの答えを自分で編み出してとても楽しかったし勉強になりました！」（子ども）

探究教室ながい（全6回）

第6回：2026年3月8日

・日時：2026年3月8日（日）14:00～16:00

・タイトル：「わたしの探究知図(ちず)！」

・参加者：子ども4名、保護者2名

・概要：1年間の探究を通じて生まれた問いや気づきをもとに、オリジナルの「長井クイズ」をつくって出題し合った。正解の速さではなく「どう考えたか」「なぜそう思ったか」を大切にしたい、1年のしめくくりの回。これまでの学びを活かしたり、新たに図書館の本を手がかりにしたりしながらクイズを作成し、参加者全員でまとめのクイズ大会を行った。
クイズ作成の視点は、①長井市や、くるんとに関するもの／②新たに興味関心をもった題材／③4択問題で出題する、とした。

・育てたい力：問いをもとに考え表現する力 / 相手の考え方を聞き受け取る力 / 探究への自信

・満足度：子ども平均 10.0 / 10 | 保護者平均 9.5 / 10

・参加者の声（抜粋）

- ・「1年間のうち、毎回ちがうテーマで探究していったら、勉強になったし友達とか家族と見ていると面白い！」（子ども）
- ・「幅広い年齢の子どもたちが一緒に楽しめる内容で、参加している息子も聞いている私たちもとても充実した時間を過ごすことができました」（保護者）
- ・「普段なかなか考えたりしないことをゆっくり向き合って考えることができる機会でもとても良かったです」（保護者）

長井市立図書館 事業報告一部紹介

ぬいぐるみと一緒に おはなし会&工作



お気に入りのぬいぐるみと一緒に参加。工作でミニ絵本を作り“相棒”とパチリ。

子どもたちがお気に入りのぬいぐるみと一緒に参加できる、とても夢のある大人気のアットホームなイベントです。
「ぬいぐるみのお泊まり会」の要素も取り入れたプログラムです。

- ①：子どもたちがお気に入りのぬいぐるみを持って図書館に集まります。
- ②：ぬいぐるみと一緒に絵本の読み聞かせ（おはなし会）を聞いたり、簡単な工作を一緒に楽しんだりします。

「大好きなぬいぐるみに読んであげたい本」「一緒に読みたい本」を想像しながら、豆本を作りました。子どもたちが普段読まないような本にも興味を持つきっかけになります。また、初めて会ったお友だちと一緒に工作をして楽しむことで、本や図書館をより身近で大好きな場所にしてくれる素敵なイベントです。

長井市立図書館 事業報告一部紹介

深山さくら氏講演会

親子でおはなしの世界へようこそ



山形県出身の童話作家・深山さくら氏によるおはなし会。サイン会も大好評でした。

地元・山形県出身の著名な絵本作家・童話作家である深山さくらさんを講師に迎えた、親子向けの特別イベントです。絵本の世界の楽しさや、親子での読書の素晴らしさに触れられるプログラム。

講師：深山さくら氏について

山形県（上山市）生まれの児童文学作家・絵本作家。代表作に『かえるのじいさまとあめんぼおはな』、『でんしゃとしょかん』。命の尊さを伝えるお話など、温かみのある作品を数多く出版されており、全国の図書館や小学校で読み聞かせや講演活動を行っています。



プロの作家から直接お話を聞くことで、子どもたちは絵本がもっと大好きになり、大人にとっても「読み聞かせの大切さ」を改めて実感できる温かい時間になったと思います。

地元山形にゆかりのある作家さんだからこそ、親しみやすい雰囲気、読者・参加者の方も安心して楽しんでいただけました。

長井市立図書館 事業報告一部紹介

大人の朗読ナイト（全3回）



「楽街楽座」の一講座。夕方からソファ席で「祭り・怪談・酒」のテーマで開催。

日中は子どもたちや学生の利用が多い「くるんと」および長井市立図書館を、閉館間際の静かな時間帯に「大人のための空間」と位置づけして、仕事や家事に追われる大人が、日常から離れてホッと一息つき、心をリフレッシュできる「家でも職場でもない居心地の良い場所（サードプレイス）」を提供することを目的としています。

また、市民団体（コネクトブックokitama）と図書館が共同で企画し、「人」「本」「地元の魅力」を有機的につなぐ場にあることを意図しています。

イベント名に『まちとつながる』と冠されている通り、朗読を通じて地域への愛着や住民同士の緩やかなコミュニティを育むことも大きな目的の一つです。

長井市立図書館 事業報告一部紹介

和綴じ本講習会



2種の綴じ方を学んだ後、時間を延長し応用編の「麻の葉とじ」にもチャレンジ。

・講師：石黒 志保 先生

（山形大学人文社会科学部 講師 / 元市立米沢図書館 認定司書）

昔ながらの製本方法で制作された「和本」を題材に、日本の伝統的な製本技術を学ぶワークショップを開催した。講座では、基本となる技法「四つ目綴じ（よつめとじ）」をはじめ、その応用である「康熙綴じ（こうきとじ）」の2つの手法を体験。元認定司書としての豊富な知見を持つ講師の丁寧な指導により、参加者全員が時間内に基本の綴じ方を習得しました。当日は講座が非常にスムーズに進行したため、急遽30分時間を延長し、希望者を対象にさらなる上級編である「麻の葉綴じ（あさのはとじ）」の指導も実施。参加者は高い集中力を持ってこれに挑戦し、見事に完遂出来ました。折しも2025年NHK大河ドラマ『べらぼう～蔦重栄華乃夢噺～』の放映期とも重なり、主人公・蔦屋重三郎が活躍した江戸時代の出版文化や歴史の背景に思いを馳せながら、実技と教養を同時に深める極めて満足度の高い機会になりました。

参加者の声（抜粋）

- 「先生の説明がとても分かりやすく、不器用な自分でも2つの綴じ方をきれいに仕上げる事ができて感動しました」
- 「大河ドラマ『べらぼう』を見てタイムリーだと思っていたので、江戸時代の本づくりを自分で体験できて楽しかったです」
- 「予定になかった『麻の葉綴じ』まで贅沢に教えていただき、時間を忘れて没頭してしまいました」

長井市立図書館 事業報告一部紹介

古文書解読講座

『東講商人鑑』を読んでみよう



展示、ワークショップとの連動企画。古文書（くずし字）解読に没頭する姿が印象的。

長井市の商業の歴史を伝える貴重な郷土資料

『東講商人鑑（あずまこうあいんどかがみ）』

をテキストに用いて、古文書の「くずし字」を実際に解読する講座を開催しました。

『東講商人鑑』は、江戸時代後期から明治期にかけて、江戸（東京）の商人や宿場町、そして地方の商人たちを結んだネットワークや当時の取引、おすすめの商店などを記録した一種の「ガイドブック」です。

講座では、文教の杜ながい・鈴木祥子講師の解説のもと、参加者が一文字ずつ丁寧に文字を読み解き、当時の長井の商人たちがどのように県外と繋がり、バイタリティ溢れる商業活動を行っていたのか、その歴史的背景を学びました。

ご感想

「最初は全く読めなかったくずし字が、先生の解説でパズルのように解けていく快感を味わえました」

「身近な長井の昔の商人たちの名前やお店の仕組みが分かり、今のまちの見方がガラリと変わるほど面白かったです」

「文教の杜に眠っている貴重な古文書を、自分たちの手で読み解くという体験自体が最高の贅沢でした」

長井市立図書館 事業報告一部紹介

読書週間イベント トショカンクエスト



図書館職員自作のキャラ、アイテムを用意。
小学校低学年の貸出件数・冊数が倍増！

本を借りてRPG（ロールプレイングゲーム）感覚で冒険が進められる、とてもワクワクするイベントです。

①キャラクター作成

図書館のカウンターへ行って、「ステータスシート」と「マイキャラ」を作ります。最初にサイコロを振って初期ステータスを決定します。

②本を読んだ分、マスを進める

読んだ本（借りた本）の種類や年齢によって、進めるマス目が変わります。

・幼児：絵本・児童書 1冊につき 1マス

・小学生以上：児童書 1冊につき 1マス / 絵本 3冊につき 1マス

・※1日に進めるのは最大 5マスまでです。

③道中のイベントとガチャ

マスを進める途中で様々なイベントが発生します。ガチャを回して装備をゲットし、キャラをオシャレに着飾るお楽しみ要素もあります。

④魔王戦（ゴール）

ゴールの魔王戦では、自分のステータスのうち2つが魔王を上回っていれば魔王討伐で勝利となります

！

クリア後の楽しみ

見事クリアした後は、ステータスを引き継いで2周目、3周目へと突入できます。何周もして長井市立図書館「最強の勇者」を目指します。

「本を借りる・読む」という行動が、RPGの「経験値を稼ぐ」「クエストを進める」というワクワクする行動に置き換わるので、普段あまり本を読まない子でもゲーム感覚で気軽に図書館に足を運ぶきっかけになっています。

長井市立図書館 事業報告一部紹介

学校図書館整理作業・ブックトーク



地域の学校（小学校・中学校など）の読書環境を豊かにし、子どもたちの読書意欲を育てるために、「学校図書館整理作業」や「ブックトーク」といった学校連携・アウトリーチ（出張）活動にも力を入れています。

【学校図書館整理の目的】

学校の先生方は日々の授業や校務で忙しいため、図書室の本格的なメンテナンス（整理や分類）に十分な時間を割けないことがあります。そこを市立図書館の職員がサポートし、学習・読書環境を整えています。

【ブックトークの目的】

単なる本の読み聞かせとは異なり、本のあらすじや面白いポイントを「語り」として伝えることで、「その本を自分で開いて読んでみたい！」という主体的な読書意欲を引き出すことを目的としています。



市内小中学校の依頼を受け休館日に学校訪問。
今後も連携し読書環境の整備に貢献します。

地域の中心となる図書館が学校と密に連携することで、学校で図書館のスタッフや本に親しんだ子どもたちが、休日に「トショカンクエスト」などのイベントを目指して、今度は長井市立図書館の本館へ足を運ぶという、素晴らしい循環も生まれています。

長井市立図書館 事業報告一部紹介

ブックフェア 開催寄贈本の持ち帰り&お楽しみ会



蔵書点検期間に実施。お楽しみ会では、図書館見学と蔵書点検の体験を行いました。

毎年2月に行う蔵書点検の休館期間中に、図書館との接点が失われない様に、普段あまり図書館を利用しない層（ファミリー層など）にも気軽に足を運んでもらい、図書館を地域の交流拠点として身近に感じてもらう目的で「本の有効活用（リサイクル）」イベントや、お楽しみ会を開催しています。

図書館で役目を終えた「除籍本（古い本や重複した本）」や、市民の皆さんから寄贈された本・雑誌などが会場に大量に並べられます。
並べられた本の中から、自分の読みたい本を自由に選んで、無料で持ち帰ることができます。

学校図書館の環境整備や「トショカン クエスト」と同様に、このブックフェアも「本を手にする機会を増やし、地域全体の読書文化を豊かにする」ための大切な取り組みとなっています。

お楽しみ会では、休館中だからこそできる、蔵書点検用の機器を実際に操作する体験や、図書館の閉架書庫などが見学できるツアーを行いました。

長井市立図書館 事業報告一部紹介

読書感想文コンクール



60回目の節目のコンクールを盛り上げようと
様々な企画を実施。素敵な作品が多数応募。

読書の楽しさや深く考える素晴らしさを体験してもらい、豊かな人間性を育むことを目的として60回目を開催しました。

本をただ「読む」だけでなく、「なぜそう思ったのか」「自分ならどうするか」を深く掘り下げて考える力を養い、自分の心に浮かんだ感動や意見を言葉にし、原稿用紙にまとめて他者に伝えるという論理的な文章表現力が高まり、考える力と表現力の向上にもなります。

60回目の節目として、図書館職員が選ぶ【60回記念特別賞】も2点入選しました。

また、未就学児向けの絵画募集【すきな本の絵をかこう】も初めて行いました。

長井市立図書館 事業報告一部紹介

図書館展示



新たな本との出会いを演出。図書館職員が
毎回アイディアを凝らし展示しました。

ご利用者が新しい本や地域の歴史・文化に出会うきっかけとなるよう、テーマを定期的に変えて企画しています。

企画展示には、単に本を並べるだけでなく、

- ・「普段は手に取らないジャンルの本（NDC分類の多様な本）に興味を持ってもらう」
 - ・「地域の歴史を身近に感じてもらう」
- という大切な役割があります。

館内に立ち寄った際は、ぜひ各コーナーの展示棚にも目を向けていただき、新しい本との出会いを楽しんでみてください。

展示中の企画については、館入り口右手の案内板でご確認いただけます。

※令和7年度の展示企画：85展示

屋内遊戯場あそびば 事業報告一部紹介

ステージイベント ゲーム



カラダやアタマを使って遊べる簡単なゲームを毎日開催。
お子さまの発達状況に合わせて難易度も変えているので誰でもチャレンジできます。

屋内遊戯場あそびば 事業報告一部紹介

ステージイベント 工作



季節の手作り工作を毎日無料で開催。テーマの見本をマネして、お絵描き・スタンプ・折り紙・ちぎり遊び・のり付けなどで完成を目指し、遊びながら手先や考えるチカラの発達を促します。

屋内遊戯場あそびば 事業報告一部紹介

ステージイベント リズム体操



『音楽』に合わせてカラダを動かすリズム遊び。テーマの音楽は聞き馴染みのある音楽から2ヵ月ごとに変更しているので、お気に入りのダンスはあそびばに来れば何度も踊れます！

アンパンマン体操・リロ&スティッチ『アロハ・エ・コモ・マイ』・ジャンボリーミッキー・ジングルベルロック など

屋内遊戯場あそびば 事業報告一部紹介

あそびばで開催されているステージイベントの主な目的は、単にお子さんを遊ばせるだけでなく、遊びを通じて心身の成長を促し、地域全体のつながりを深めることにあります。

「天候に左右されずにのびのびと遊べる環境づくり」をベースに、ステージイベントによってさらに歩進んだ「遊びの質の向上」と「多世代・地域間の交流」を生み出すことを目指しています。

1. 子どもの健やかな心身の発達（運動・表現の機会）

「リズムたいそう」やダンスなど、音楽に合わせて体を動かすことで、基礎的な運動能力やリズム感を楽しみながら養います。また、スタッフやお友達と一緒に表現する楽しさを知るきっかけにもなります。

2. 親子のコミュニケーションの促進

家とは違う開放的な空間で、親子が一緒になってゲームに参加したり工作に挑戦したりすることで、親子の絆を深め、共通の楽しい思い出を作る場を提供します。

3. 集団行動や社会性を身につける（他者との交流）

他のお友達と同じ空間でルールのあるゲームをしたり、一緒にたいそうを踊ったりする経験を通じて、順番を待つことや、周りの人と協力して楽しむといった社会性を自然と育みます。

4. 子育て世代の孤立防止とコミュニティづくり

ステージイベントをきっかけに、保護者同士が自然に顔見知りになり、子育ての悩みや情報を共有し合えるような、地域における安心できるコミュニティ（居場所）の形成を目指しています。

屋内遊戯場あそびば 事業報告一部紹介

外部講師イベント 親子で作ろうバルーンアート



自宅に帰ってからも作れる季節感を感じる
バルーンアート作りに親子で挑戦！

風船を使って様々な形を作る楽しさを体験できる、親子に大人気のワークショップです。地元パフォーマー（ふうせんたけさん）が風船の膨らませ方、結び方、割れにくくするひねり方のコツなどを基礎から丁寧に教えてもらえます。

■手先の器用さと想像力を育む

細長い風船を「ひねる・組み合わせる」という作業を通じて、立体的な造形感覚や手先の器用さを楽しみながら養います。

■「割れるかもしれない」ドキドキと達成感

割れそうで怖いというドキドキ感を乗り越えて、自分の手で作品を完成させたときの達成感は、子どもたちにとって大きな自信になります。

■親子の共同作業と笑顔の時間

「ここはちょっと押さえてね！」「できた！」と、親子で声を掛け合い、協力しながら一つのものを作り上げる特別なコミュニケーションの場にもなっています。

屋内遊戯場あそびば 事業報告一部紹介

外部講師イベント くるんと親子ヨガ



ベビーマッサージやママヨガで、お子さまとのスキンシップ、心と体のリフレッシュ!!

赤ちゃん和妈妈・パパがペアになり、スキンシップを図りながら楽しく体を動かせる毎月開催の人気のプログラム。

■親子のスキンシップ&コミュニケーション

ママやパパと呼吸を合わせながらヨガのポーズを行います。肌と肌が触れ合うことで、赤ちゃんの情緒の安定や愛情形成にも効果的。

■ママの産後ケア・骨盤調整

産後の腰痛や肩こり、体型の変化に悩むママのために、骨盤をしっかり整えるポーズやセルフケアの指導も受けられます。

■自宅でできる簡単レッスンの紹介

ベビーマッサージやベビーヨガの要素を取り入れ、お家に帰ってから親子で気軽に実践できる簡単な動きを教えてください。

屋内遊戯場あそびば 事業報告一部紹介

外部講師イベント インプロ（即興演劇）ワークショップ



空想して言葉に出したり、動きを表現する
って愉快で楽しい。コミュカがアップ!!



台本のないお芝居やゲームを通じて、コミュニケーション力や柔軟な思考を楽しく育む体験型のワークショップ

■他者を受け入れ、協調する心を育む

インプロの基本ルールである「相手のアイデアを否定せず受け入れ（Yes）、そこに自分のアイデアを付け足す（And）」を体験します。お互いの良さを活かし合いながら、みんなで一つの劇やゲームを創り上げる協調性が養われます。

■生きたコミュニケーション力と傾聴力の向上

台本や事前の打ち合わせなどはしません。相手の言葉や表情、その場の空気を全力で「聴く・観る」必要があるので、相手を注意深く観察し、それに対して臨機応変に反応するリアルなコミュニケーション力が遊びの中でも自然と身につきます。

■失敗を恐れない心と柔軟な思考力の育成

即興の場では、予定通りにいかない「失敗」こそが、新しい展開を生み出す面白いヒントに変わります。予測不能な事態が起きても、それをみんなで認め合い、楽しみながら前向きに切り抜ける「折れない心」と柔軟性を育みます。

■創造力（クリエイティビティ）と表現力の解放

「これを言ったら変かな？」という頭の中のブレーキは外して、その瞬間に湧き出た直感やアイデアを素直に言葉や体で表現することで、子どもたちの豊かな想像力と自己表現力をのびのびと引き出せます。

屋内遊戯場あそびば 事業報告一部紹介

外部講師イベント くるんとけん玉チャレンジSPIKEコラボ



はじめての『けん玉』はくるんとで体験、
次はけん玉ひろば SPIKEへ遊びに行こう!!

長井市は競技用けん玉の生産量が日本一ということもあり、SPIKEには世界トップクラスの腕前を持つプロや地域おこし協力隊の管理人スタッフが在籍しています。イベントでは初めての子どもでも分かりやすく、くるんとで楽しく技のコツを教えてもらえるのが魅力です。

イベントの主な目的は、長井市の「市技」であるけん玉を通じて、子どもから大人まで多世代が楽しく交流し、地域コミュニティを活性化しつつ、市外県外から遊びに来てくれたご家族さまにも【けん玉のまち長井】を広く周知することです。

■プロの指導によるけん玉の魅力発信

世界トップクラスの腕前を持つ「SPIKE」のスタッフや地域おこし協力隊が直接コツを教えることで、初心者にはできた喜びを、経験者にはステップアップの楽しさを伝えます。

■「市技」としての文化の継承と普及

長井市が誇るけん玉文化を、地域の次世代を担う子どもたちに遊びながら自然に親しんでもらう機会を提供し、シビックプライド（郷土愛）も養成する。

■地域コミュニティの活性化

長井市の中心的な交流施設である「くるんと」を舞台に、市民や来館者が世代を超えて一緒に熱中し、つながりを持てる場をつくります。

屋内遊戯場あそびば 事業報告一部紹介

外部講師イベント Famties くるんとダンスタイム



ダンサーのHALと
COCOがイマ流行
り曲で振付を教えて
子供たちと一緒に
ダンス！
雰囲気もガラリ。

長井市を拠点に活動するダンスコミュニティ「Fam ties」（ファミタイズ）が、交流施設「くるんと」のあそびばで開催している出張ダンスレッスンの企画。

HALさん（母）とCOCOさん（娘）が率いる「Fam ties」は、「家族の絆」をテーマに子どもから大人までが楽しめるアットホームなダンス空間を提供していて、くるんとのイベントステージでも定期的に親子向けダンスレッスンを行っています。ダンスを通じて子どもから大人まで誰もが主役になれる場をつくり、参加した人やその場にいるみんなをHAPPYにすることを目的としています。

■ダンスを通じた笑顔の連鎖

ステップを踏む楽しさや音楽に合わせる心地よさを共有し、会場全体を明るい笑顔で満たすことを目指しています。

■「家族の絆」と多世代の交流

親子で活動する「Fam ties」だからこそ、幼児からお父さん・お母さん、そして大人世代までが同じ空間で一緒に体を動かし、世代を超えてあたたかくつながれるアットホームな交流の場を提供しています。

■誰でも一步を踏み出せるきっかけ作り

初めてダンスに触れる子どもたちが気軽に音楽を楽しめるよう、ハードルを下げた「みんなが主役になれる空間」を「くるんと」を舞台に創り出しています。

屋内遊戯場あそびば 事業報告一部紹介

特別イベント

2周年記念 あそびば縁日



あそびばの小さな縁日。今年は流れるプールのスーパーボールすくいと、お菓子が貰える輪投げ。景品の種類も沢山準備してワクワク感を演出。

猛暑が続く夏休みやお盆の時期に、天候や熱中症の心配をすることなく、親子が涼しい快適な環境でお祭り気分を楽しめる場を提供し、あそびばの周年を賑やかに彩ります。

昨年は8月9日～11日の3日間、流れるスーパーボールすくい・輪投げゲームを行いました。

安心・安全な夏の思い出作り

近年の厳しい夏の暑さ（猛暑）の中でも、涼しい屋内で体調を崩す心配をせず、子どもたちに夏ならではの「お祭り体験」を思いきり楽しんでもらう機会をつくります。

親子の気軽なリフレッシュ空間の提供

遠出や屋外での活動が難しいお盆・夏休み期間中に、身近な施設である「くるんと」で気軽に特別な非日常感を味わってもらい、親子のふれあいやリフレッシュを促します。

地域の賑わいと交流の創出

帰省客なども増える時期に、特設の出店（お祭りブース）を通じて、地域の子もたちや家族連れが自然と集まり、笑顔で賑わえるコミュニティの場を提供します。

屋内遊戯場あそびば 事業報告一部紹介

特別イベント あそびばdeビンゴ



あそびばでは定番の大人気イベント。
5月・8月・12月に実施。

あそびばに来場した子どもたちやそのご家族が、お馴染みのビンゴゲームを通じて、気軽にハラハラ・ドキドキする高揚感を味わい、みんなで一緒に盛り上げられる特別な体験を提供しています。

■シンプルなルールで誰もが主役になれる体験

ルールが簡単で小さなお子様から大人まで理解しやすいビンゴだからこそ、年齢を問わず全員が「当たるかもしれない」というワクワク感を平等に楽しむことができます。

■会場の一体感と賑わいの創出

数字が発表されるたびに歓声が上がったり、お互いにカードを見せ合ったりすることで、その場にいる参加者同士に自然なコミュニケーションや一体感が生まれ、あそびば全体が楽しい活気に包まれます。

■やり遂げた達成感や喜びの提供

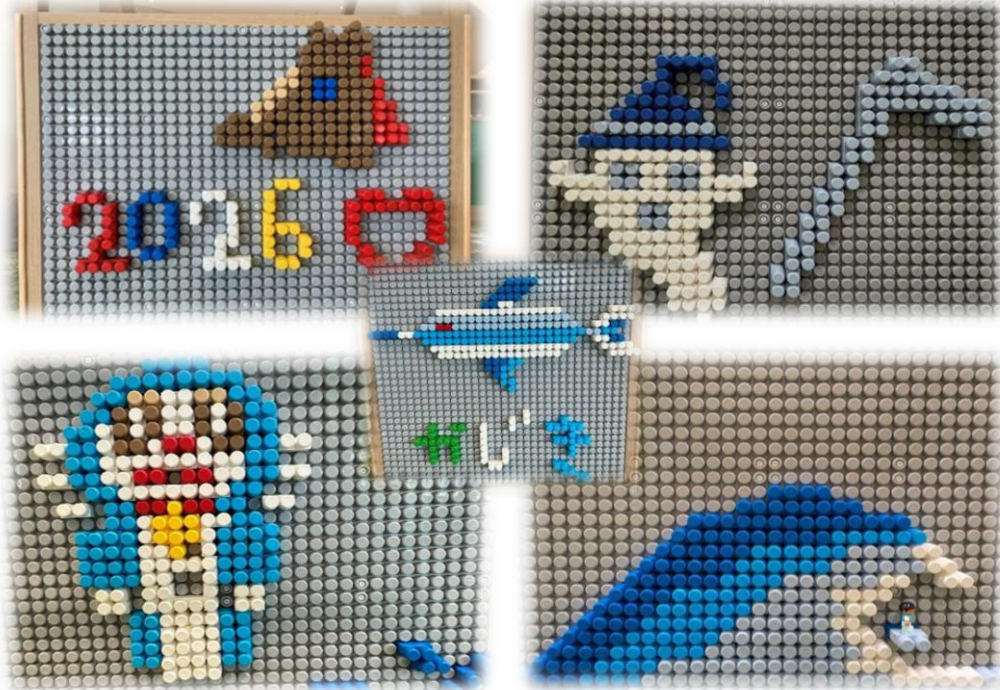
「ビンゴになった！」という達成感や、景品をもらえる嬉しさを通じて、子どもたちにとってあそびばでの時間がより特別な、心に残る楽しい思い出になるよう企画されています。

主な景品

- ・くるんとオリジナルグッズ（ノート・タオル・バッグ）
- ・パズルゲーム、カードゲーム、テーブルゲーム
- ・こむぎ粘土
- ・ビーズ、アクセサリーキット など

屋内遊戯場あそびば 事業報告一部紹介

そうそうひろば ピクセルアートミュージアム



ブロックでお絵描きするピクセルアート。
想像力と独創性が光る作品が多数作られます。

あそびばの【そうそうひろば】で開催されている、子どもたちが作ったブロック作品を展示・紹介する参加型の企画（ギャラリー）です。

あそびばに用意されているブロック遊び（Bブロック）から発展したもので、「すきなたてもの」や「いきもの」など、季節やテーマに沿った「今月のお題」が設定されます。子どもたちが「芸術家」になれる場所として、ブロックを使ってお題に沿った作品を自由に作り上げます。完成した素敵な作品は、あそびば内のイベントステージやインスタグラムで「ミュージアムの展示品」として飾られます。

■表現することの喜びと達成感を味わえる

自分で一生懸命作った作品が「ミュージアム」としてみんなに見てもらえる場所に展示されることで、子どもたちに大きな達成感と「認められた喜び」を提供しています。

他の作品から刺激を受け、想像力も広がる

お友達が作った多様なピクセルアート作品を見ることで、「こんな表現方法もあるんだ！」という新しい発見や刺激を受け、次回作への意欲やさらなる想像力を育まれます。

あそびば全体の活気と楽しさを高める

子どもたちの自由でカラフルな発想の作品がずらりと並ぶことで、あそびばの空間そのものがより賑やかでワクワクして、クリエイティブな雰囲気にも包まれます。

屋内遊戯場あそびば 事業報告一部紹介

あそびばインクルーシブデイ



こどもたちの『あそびば』をみんなに使ってほしい。遊びたい・遊ばせたいは誰でも一緒。

障がいの有無や年齢、国籍などに関わらず、すべての子どもたちが互いの違いを認め合いながら、同じ空間で一緒に楽しく遊べる環境を目指す特別な日（イベント）です。

多様性を認め合う「インクルーシブ（包摂的）」な社会づくりが求められている一方で、まだまだ進まない格差・違いの溝を少しでも埋めるきっかけに。

■すべての子どもに「遊び」の機会を保障

普段、大きな音や混雑、周囲の目が気になって思いきり遊ぶことが難しい障がいのあるお子様やそのご家族でも、安心してのびのびと過ごせる時間・空間を提供。

■「ちがい」を自然に受け入れる心の育成

幼少期から多様な特性をもつお友達と同じ場所で一緒に遊ぶことで、子どもたちが言葉や理屈ではなく、感覚として「みんな違ってみんないい」という多様性や思いやりの心を自然に育むきっかけをつくります。

■保護者同士の交流と孤立の防止

子育ての悩みや情報を共有できる仲間と出会う場を提供し、障がい児福祉や地域の子育て世帯が孤立せず、あたたかくつながれるコミュニティの形成を目指しお手伝いします。

■地域社会へのインクルーシブ意識の普及

地域の中心的な交流拠点である「くるんと」からインクルーシブな遊びの価値を発信することで、街全体で多様性を支え合い、誰もが暮らしやすい社会（共助の精神）について考える契機としたいです。

交流イベント 事業報告一部紹介

くるんとシャボン玉ひろば



お空いっぱいシャボン玉を飛ばす爽快感とお外で遊ぶ解放感を楽しんでもらっています

子どもたちにとって身近で大好きな「シャボン玉」をテーマに、開放的な屋外（花のひろば）で思いきり体を動かしながら、科学的な興味関心や五感を刺激する特別な体験を提供しています。

■五感を使った非日常的な体験と感動の提供

普段の生活では見られないような「巨大なシャボン玉」や「無数のシャボン玉」に囲まれる空間をつくり、子どもたちの好奇心や「触ってみたい！」というワクワク感を最大限に引き出しています。

■遊びを通じた自然な学び（科学への興味）

シャボン玉が膨らむ仕組み、光の当たり方で色が変わる様子などに触れることで、子どもたちが遊びの中で自然と科学的な不思議さに興味を持つきっかけをつくっています。

■親子のふれあいと世代間交流の創出

大人にとっても懐かしいシャボン玉を通じて、親子の会話や一緒になって追いかけるふれあいの時間を生み出すとともに、イベントの参加者同士が笑顔で空間を共有できるアットホームな賑わいの場を提供しています。

開催時期は、4月～10月頃まで。

※夏期（8月・9月は天候により判断）

交流イベント 事業報告一部紹介

ながい黒獅子体験



長井市を代表する伝統文化の継承と観光PR。
黒獅子まつり（5月）のスタートをみんなで
見送りました。

長井市が誇る伝統文化「黒獅子（くろじし）」と、それに欠かせない「黒獅子太鼓」の魅力を、子どもたちが実際に「触れて・叩いて・体感する」ことで、地元の伝統への愛着と誇りを育むことと、市外県外の方々にも広く知っていただくことを目的としています。

■本物の伝統文化に触れる特別な体験

長井市の象徴である黒獅子の迫力ある太鼓のリズムを、地域の担い手（小出地区獅子連）から直接教わりながら実際に叩くことで、子どもたちに五感を使った非日常の感動を提供しました。

■次世代への文化の継承

地域の歴史や伝統芸能に小さいうちから親しみ、「かっこいい！」「おもしろい！」と感じてもらうことで、郷土愛を深め、未来の伝統文化を支えるきっかけに。

■親子のふれあいと賑わいの創出

お祭りのワクワク感を身近な施設である「くるんと」で体感してもらい、家族みんなで地域の文化を楽しみながら、施設全体が活気ある楽しい空間になります。

昨年は、

- ・5月の黒獅子まつり・9月の小出地区例祭（皇太神社）にそれぞれ開催しました。

交流イベント 事業報告一部紹介

夏休みスタンプクエスト くるんと×旧長井小学校第一校舎コラボ



	長井市遊びと学びの交流施設くるんと	旧長井小学校第一校舎
7月中		チャレンジランキング ～魚つりチャレンジ～※
7月19日(土)～	図書館シート大抽選会	
7月26日(土)	くるんとシャボン玉ひろば ※	たんたん、かんかん、たんきん（鍛金）体験①※
7月27日(日)	探究教室ながい『くらしと宇宙の知図』	たんたん、かんかん、たんきん（鍛金）体験②※
7月30日(水)		教えてまちの先生デー※
8月中		チャレンジランキング ～ダーツチャレンジ～※
8月6日(日)		教えてまちの先生デー※
8月8日(金)	図書館シネマ『コット 始まりの夏』	
8月10日(日)		どきどき！サイエンスLab.
8月11日(月)	くるんとレモネードスタンド	
8月13日(水)	くるんとシャボン玉ひろば ※	

くるんと⇄旧長井小学校の相互送客。
夏休みのイベントに参加してスタンプを集め
ガチャガチャを回してで景品をゲット。

長井市の2つの施設が連携して夏休み期間中に開催する、お子様向けの参加型周遊スタンプラリーイベントです。

「くるんと」と、歴史的建築を活かした学びと交流の拠点「旧長井小学校第一校舎」の双方で行われている夏休みイベントを、子どもたちがクエスト感覚で楽しく巡るための企画です。

■夏休みの安心・充実した居場所づくり

長期間の夏休みを迎えた子どもたちに、地域の施設を楽しく有効活用してもらい、健康的で有意義な休日の過ごし方の提案にもなります。

■地域の歴史や文化へ親しむきっかけ（郷土愛の育成）

普段づかいとしてはあまり使わない歴史的建造物（旧長井小学校）にクイズやスタンプラリーを通じて気軽に立ち寄ってもらい、地元の歴史や文化に自然と興味を持ってもらう狙いもあります。

■施設間の回遊性と地域の賑わい創出

2つの拠点を結ぶことで、家族連れが街のなかを移動する流れ（回遊性）が生まれ、夏休み期間中の地域全体の活気と賑わいを高めます。

交流イベント 事業報告一部紹介

くるんと水鉄砲バトル



はじめての水遊びイベント。水鉄砲で相手の頭のポイを打ちぬく競技を開催。お子様の年齢差で勝ち負けが出やすかったが大盛り上がり。

夏休み期間中にみどりのひろばを舞台に開催する、子ども向けの参加型アクティビティイベントです。

夏の暑さを吹き飛ばす、全力の水遊び企画として昨年初めて開催しました。

■安心・安全に全力で涼める遊び場の提供

厳しい夏の暑さの中でも、子どもたちが熱中症に気をつけながら、水を浴びて安全に・思いきり涼しくエネルギーを発散できる遊びの場になります。

■チームワークと戦略的思考（ゲーム性）の育み

ただ水をかけ合うだけでなく、チームに分かれて遊ぶことで、子どもたち同士が作戦を練ったり、協力し合ったりする協調性やゲームとしての楽しさを体験できます。

■夏の特別な思い出づくりとコミュニティの活性化

日常生活ではなかなかできない「びしょ濡れになって遊ぶ」という非日常的な体験を通じて、子どもたちの最高の夏の思い出を作るとともに、家族連れや地域の子どもたちが集まって賑わえる活気ある交流の場を提供します。

交流イベント 事業報告一部紹介

探究教室ながいとくべつ編



8月12日～16日、エントランスホールにて各分野の専門家の先生たちによる講演やワークショップを開催。お盆期間と重なったことでイベントへの参加者数は延べ682人と全国各地からお越しいただき大盛況でした。普段聞けない内容に大人も子供も知的好奇心・探究心を掻き立てられました。

交流イベント 事業報告一部紹介

探究教室ながいとくべつ編

地球科学、算数、ものづくり、宇宙開発、生物学、地域資源など多岐にわたるテーマを取り上げ、第一線で活躍する研究者や専門家を講師として招へいした。講座を通して、子どもたちは「なぜだろう」「もっと知りたい」という知的好奇心を起点に、自ら考え、学びを深める探究的な姿勢を育む機会となりました。

各講座では、講師による一方的な知識の伝達に留まらず、クイズや実験、観察、工作、体験活動などを取り入れ、参加者が主体的に学べる工夫が随所に見られました。特に、コロコロ装置づくりや海老の解剖教室では、試行錯誤や観察を通じて課題解決に取り組む姿が見られ、探究学習の本質である「問いを持ち、自ら確かめる学び」が実践されたと思います。

また、宇宙や地球科学に関する講座では、最先端の研究やプロジェクトに携わる講師から直接話を聞くことで、普段触れることの少ない科学の世界を身近に感じる機会となった。参加者からは積極的な質問も多く見られ、専門性の高い内容でありながらも高い関心を持って受講していただきました。

さらに、長井市の地域資源である花崗岩やけん玉を題材とした講座では、地域への理解や愛着を深める機会にもなりました。身近な自然や文化と学問を結びつけることで、地域の魅力を新たな視点から発見する学びにもなったと思います。

参加者数は、算数教室や宇宙関連講座を中心に多くの来場者を集め、子どもから大人まで幅広い世代が参加してくれました。

本事業を通じて、子どもたちが未知のことに興味を持ち、自ら考え行動する探究心を育むとともに、保護者にとっても子どもと共に学ぶ貴重な機会となった。

交流イベント 事業報告一部紹介

探究教室ながいとくべつ編

2025年8月12日

「水のまちのナゾをさぐれ！～石が教えてくれる1億年の秘密～」 講師：舘野繁彦 先生

■身近な大地の歴史を知る（郷土愛の育成）

長井市が誇る豊かな自然環境や盆地形成の仕組みを、地元の「花崗岩（石）」という具体的な素材から紐解くことで、自分が暮らす「水のまち長井」の成り立ちを地球科学の視点から深く見つめ直すきっかけに。

■五感を使った科学的アプローチの体感

石の分類やロックバラnsing（石積み）といった体験型のワークを通じて、ただ知識を教わるだけでなく、自らの手で触れ、バランスを体感しながら、科学的な探究心や観察力を楽しく養いました。

2025年8月14日

「お笑い算数教室 ～みんなで笑って、数とカタチの秘密を学ぼう！～」 講師：タカタ先生

■算数に対する苦手意識の払拭と「楽しむ」姿勢への転換

「学び」と「お笑い（ユーモア）」を融合させることで、算数を「解かなければならないもの」から「ワクワクしながら考えるもの」へと捉え直し、子どもたちが主体的に学ぶ姿勢になりました。

■抽象的な概念の視覚的・直感的な理解

絵描き歌を用いた図形の特徴把握や、数式を使ったキャラクター描画などを通じて、ハードルの高い座標や関数、確率といった抽象的な概念を、子どもたちが視覚的・直感的に楽しく理解することができました。

交流イベント 事業報告一部紹介

探究教室ながいとくべつ編

2025年8月15日

「コロコロ装置をつくろう！ワークショップ」 講師：星 功基 先生

■試行錯誤（PDCA）を通じた問題解決能力の育成

イメージ通りに球を転がすのが難しい「コロコロ装置（ピタゴラ装置）」作りを通して、親子やグループ間で「どうすれば成功するか」を話し合い、失敗を繰り返しながらアイデアを形にする粘り強さと論理的な思考を学びました。

■多角的な視点の獲得と、達成感の共有

専門的な仕組みを学びながら、身の回りの日用品（紙コップや地元のけん玉など）を「装置のパーツ」として見立てることで、多角的に見る柔軟な視点を養いました。また、成功の瞬間を共有できたことで、感動と一体感が味わえました。

2025年8月16日

宇宙・科学特別講座（子ども向け3講座） 講師：津田雄一先生 / 野村泰紀先生 / 本間希樹先生

（「はやぶさ2、その挑戦と裏側」「宇宙はなぜ生まれたか」「ブラックホール撮影の最前線」）

■最先端の科学に触れることによる好奇心の解放

宇宙開発、素粒子論、ブラックホール観測といった世界の最先端で活躍する専門家・研究者から直接話を聴くことで、子どもたちの想像力を刺激し、「未知の領域を考える楽しさ」や科学への強い興味関心を引くことが出来ました。

■チームワークの大切さと、挑戦し続ける姿勢の学び

想定外のトラブルをチームでどう乗り越えたかという実例（はやぶさ2等）に触れ、「もし自分ならどうするか」を主体的に考える機会を設けることで、一人では成し遂げられない大きな挑戦に挑むためのコミュニケーションや協調性、あきらめない心の重要性を学ばせてもらいました。

長井市遊びと学びの交流施設くるんと

交流イベント 事業報告一部紹介

探究教室ながいとくべつ編

2025年8月16日

「記念講演 はやぶさ2 最強ミッションの真実」（大人向け） 講師：津田雄一先生

■開館2周年を祝う、地域のアカデミックな賑わいの創出

「くるんと」の開館2周年を記念し、大人向けに特化した一步踏み込んだ技術的・専門的な講演を提供することで、地域の大人の知的好奇心を満たし、施設への愛着や文化的な交流をさらに深めることができました。

■プロジェクトマネジメントと技術開発のリアルな学び

宇宙開発の最前線における精密な制御や、限られた条件下での意思決定のプロセスを詳細に学ぶことで、宇宙ファンとしての知識を深めるだけでなく、現代のビジネスや組織運営にも通じるプロジェクト遂行の神髄に迫るような貴重な学びの場になりました。

2025年8月16日

「探究学舎 けん玉の秘密編in 長井市」 講師：平尾海渡先生

■地域資源「けん玉」の価値の再発見と郷土への誇り

長井市の特産品であり文化である「けん玉」の歴史や街との関わりを、人気探究講師の授業を通じて学ぶことで、地元の魅力を新鮮な驚きとともに再発見し、郷土への愛着と誇りを高められました。

■パフォーマンスと体験による、技への挑戦意欲の向上

地元の「けん玉ひろばSPIKe」によるプロフェッショナルな技を目の前で体感し、その熱量のまま体験コーナーに臨むことで、子どもたちの「やってみたい！」「できるようになりたい！」という挑戦心と運動能力を楽しく刺激しました。

交流イベント 事業報告一部紹介

探究教室ながいとくべつ編

2025年10月18日

「海老の解剖教室」 講師：早武忠利先生

■「見ていたつもり」「知っているつもり」からの脱却と、本物の観察眼の育成

何も見ずに海老をスケッチするという導入から、実際の構造との「ズレ・ギャップ」に気づかせることで、子どもたちの課題意識と強い探究意欲に火が点きました。

■いのち（食）への感謝と、学びの家庭への還元

一人1匹ずつの実物観察を通して生物の体の神秘や合理性を五感で納得し、生き物への畏敬の念や食への興味を深められたと思います。

「家でもう一度やって家族に伝えたい」と帰りにスーパーへ行く宣言をする参加者も居り、日常の食卓へとつながる後引く学びが提供できました。

交流イベント 事業報告一部紹介

くるんとレモネードスタンド



くるんとで毎年行っている慈善活動。年間2500人（7,500人に1人）のお子さまが罹る小児がんは決して他人事ではなく、身近に起こる・起こっている事かもしれません。
皆様のご協力で、6万6200円の寄付をすることが出来ました。

交流イベント 事業報告一部紹介

くるとレモネードスタンド

子どもたち（中高生ボランティア）が主体となってレモネードの販売に挑戦する体験型のワークショップです。近年、全国の商業施設や小児がん支援活動（レモネードスタンド普及協会など）と連携して開催されることが増えている企画で、くるとでも毎年開催しています。

■社会の仕組みや「お金の循環」を学ぶキャリア教育に

ただレモネードを飲むだけでなく、子どもたち自身が「店員さん」になり、接客、商品の手渡し、お金のやり取りなどを実践します。遊びを通じて、社会の仕組みや働くことの楽しさ、大変さを身をもって学ぶ貴重な機会になっています。

■コミュニケーション能力と自立心の育成

「いらっしやいませ！」の元気な挨拶や、お客さん（地域の方や保護者）とのやり取りを通じて、表現力やコミュニケーション力が養われ、やり遂げたことによる大きな自信になります。

■社会貢献（チャリティ）への関心

売上の一部を小児がん治療支援や地域の福祉活動へ寄付することで、子どもたちが「自分の頑張りが誰かの役に立つ」という社会貢献の優しさに触れるきっかけになります。

■地域と子どもたちのあたたかい交流

一生懸命にがんばる子どもたちの姿を通じて、施設を訪れるご利用者さまが自然と笑顔になり、地域全体で子どもたちの成長を見守り、応援するあたたかい交流の場を創り出しています。

交流イベント 事業報告一部紹介

くるんと防災フェスタ2025～はじめての一步、防災のチカラ～



『いつか来る…』に備えるための防災知識と減災行動。正しい知識を持っても一人ではどうにもなりません。体験を通じた遊びや学びが、いざという時に経験から活かせる行動になる『はじめての一步』。起きたから考える、ではなく起きるかもしれないから親子で防災・減災に触れていただく機会。

交流イベント 事業報告一部紹介

くると防災フェスタ2025～はじめの一步、防災のチカラ～

市民や施設を訪れる家族連れが、日頃の防災について身近なところから楽しく学び、災害時に自らを守るための「はじめの一步」を踏み出すきっかけをつくることを目的として開催しました。

■防災意識のハードルを下げ、身近にする

「防災」と聞くと難しく堅いイメージを持たれがちですが、体験型のワークショップや楽しい企画を通じることで、子どもから大人までが「これなら自分にもできそう」「やってみよう」と防災意識を前向きに後押し出来ます。

■実践的な「防災のチカラ（自助・共助）」の育成

いざという時に役立つ具体的な知識（非常食の体験、防災グッズの使い分け、避難のシミュレーションなど）を五感を使って体験し、自分や家族の命を守る具体的な行動力を養う事が出来ます。

■地域コミュニティの連携と安心の拠点づくり

地域の交流拠点である「くると」で行う事で、市民、行政、専門家などが一堂に会しやすく、災害時に助け合える地域のつながり（共助）が強まり、街全体の地域防災力を高める効果にも期待が出来ます。

共催：長井市
西置賜行政組合消防本部
長井市遊びと学びの交流施設くると
川のみなと長井音楽祭実行委員会
協力：山形国道河川事務所・八千代エンジニアリング株式会社・エフエムい〜じゃん おらんだラジオ・NHK山形放送局・日本赤十字社 山形支部・山形県防災士会・白鷹町防災士ネット
ワーク・社会福祉法人 長井市社会福祉協議会・一般社団法人火災予防のONE LOVE・山形県リハビリセンター NPO法人コメリ災害対策センター・長井市子供会育成会連絡協議会・三菱自動車販売株式会社長井店・自衛隊山形地方協力本部 米沢地域事務所・山形県長井警察署・DRT JAPAN YAMAGATA